

熊谷美術館内部

この美術館の収蔵品は、敷地内にある 3 つの大きな蔵を中心に展示されている。熊谷家は江戸時代（1603～1867）の豪商で、蔵の展示室に熊谷家が収集した名品を展示している。収蔵品は、書画屏風、陶磁器、茶道具、民具、文書資料など多数ある。

常設展示されているのは、日本最古のピアノである英国式ピアノフォルテ。1828 年、オランダ東インド会社に勤務していたドイツ人医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796～1866）が、4 代目熊谷五右衛門（1795～1860）に贈ったものだ。

3 つの蔵の東側にある旧家屋では、日本の現代美術家の作品を展示している。アーティストは自由にスペースを使用することができ、作品のインパクトを高めることができる。

丹念に手入れされた江戸時代の庭園には、松・もみじ・桜の三本の木があり、禅美術で好まれる「○△□」の剪定が施されている。庭には樹齢 600 年のソテツと樹齢 300 年の影向松が植えられている。